

令和元年第3回松島町議会定例会 町長所信表明

(令和元年9月25日)

令和元年第3回松島町議会定例会の開会に当たり、冒頭の貴重なお時間をいただきまして、町長就任の御挨拶と町政運営に対する所信の一端を申し上げ、議員並びに町民の皆様に御理解と御協力をお願いしたいと存じます。

過日行われました町長選挙におきまして、町民の皆様をはじめ、各方面からの力強い御支援と御厚情を賜り、引き続き町政を担うことができますことを大変光栄に感じておりますとともに、その任に課せられた使命と責任の重さに改めて身の引き締まる思いであります。

新たな4年間も、御支援を賜りました多くの方々の御期待に応えるため、また、すべての松島町民の皆様に対する責務を果たすため、これまでの経験と実績を生かし、「活力あるまちづくりの実現」に向けて全精力を傾注していく所存であります。

さて、私は、平成27年9月に町長に就任して以来、「活力あるまち・松島」を目指し、全力で町政運営に取り組んでまいりました。

就任後間もなく、まちづくりの指針となる「松島町長期総合計画」を新たに策定し、「定住」、「子育て」、「交流」の重点戦略の下、これまで各種施策を推進してまいりましたが、特に就任時にお示ししました「復興の加速化」をはじめとする5つの基本政策につきましては、非常に大きな成果を上げることができたものと感じております。

まず、就任当時に本格化し始めました復興事業につきましては、避難施設や避難場所、備蓄倉庫等の防災施設の整備がすべて完了し、現在一部の避難道路と下水道関連施設整備を残すのみという段階まで進捗させることができました。

また、宿願でありました「松島海岸駅バリアフリー設備整備事業」につきましては、国や宮城県、東日本旅客鉄道株式会社との太い絆を築き上げ、実現される運びとなりましたことに加え、マリンピア松島水族館跡地におきましても民設民営による集客施設「松島離宮」の開業が予定されるなど、松島海岸駅周辺における観光事業の更なる発展に大きな一歩を踏み出すことができました。

企業誘致につきましては、首都圏や近畿圏をはじめ、県内外での積極的な誘致活動により、幡谷地区や根廻地区へのメガソーラー施設の誘致を実現することができました。

さらに、明神地区における商業施設誘致を目指した「市街化区域編入」の計画や、品井沼駅周辺におけるコミュニティの維持を目的とした「地区整備計画」の策定など、新たな土地利用の実現に向け大きく前進することができました。

また、「子どもに重点を置いたまちづくり」といたしまして、子ども医療費助成における対象年齢の拡大と所得制限の撤廃、全ての幼稚園における「3歳児教育」の完全実施など、子育て環境と教育環境の充実を図ることができました。

このように将来的な町の発展に資する多くの施策が実現できたことは、ひとえに議員各位をはじめ、町民の皆様の御理解と御協力のたまものでありますとともに、職員が一丸となって取り組んだ成果でもあり、関係各位に対し、この場をお借りし、改めて心から感謝申し上げます。

さて、今日我が国は、少子高齢化の急激な進行により、かつて経験したことのない人口減少社会を迎えております。

このことは、とりわけ地方に深刻な影響をもたらし、疲弊した地方経済や関係が希薄化している地域コミュニティの現状とあいまって、全国的に大変厳しい行政運営を強いられる状況を招いております。

また、経済情勢につきましては、内閣府による「月例経済報告」において、国内景気は「緩やかに回復している」との総括判断を維持し

たものの、米中貿易摩擦や韓国への輸出規制強化等の通商問題、消費税引き上げによる影響などの要因により、先行きは不透明な状況にあります。

本町におきましても、例外ではなく、人口減少が著しく、本年9月1日現在の人口は13,951人を数えておりますが、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計においても減少することが示されており、今後ますますの深刻化が懸念されます。

財政状況につきましても、生産年齢人口の減少や地価の下落等により町税の増収が期待できない一方で、扶助費等の義務的経費に加え、施設の維持経費や特定事業費の増大が引き続き見込まれることから、依然として厳しい状況にあります。

「意志あれば道は開ける」というリンカーンの言葉がありますが、これは「どんなに困難な状況であっても、それをやり遂げる意志があれば、必ず道は開ける」という意味であり、私が政治を志して以来、特に大切にしてきた政治理念の一つであります。

まちの将来を左右する、この厳しく険しい局面で再び町政の舵を取らせていただくことになりました今、この危機を乗り越えることが私に課せられた使命であり、この言葉のとおり強い決意を持って果敢に町政に取り組むことで、松島町に関わる全ての人々が、「集い」、「学び」、「働き」、心から良かったと思える「笑顔あふれる美しいまち松島」を実現できるものと固く信じております。

この信念を現実のものとするため、私が進めていく基本的な政策は次の5つであります。

まず、一つ目としまして、「魅力ある定住環境の促進」であります。

本町の急速な少子高齢化の大きな要因の一つに、若者世代の都市部への流出が挙げられ、町外への人口流出の抑制や町外からの移住・定住を促進するための施策を展開してまいりました。

しかしながら、総務省の調査によりますと、都市部からの移住者を増やすために必要な支援や有効な取組として「就業・就労支援」、「住宅支援」、「地域の魅力アップや地域情報の発信」、「子育て環境」と示されており、今後は、特に子育て世代などの若年層における幅広いニーズに応じた「若者定住対策」を推進する必要があります。

このため、定住補助金の交付と首都圏等でのPR活動を継続するとともに、地域おこし協力隊の受け入れや町内での起業・創業と合わせた移住施策、さらに地域コミュニティの維持対策としまして、これまで進めてまいりました「品井沼地区地区整備計画」に次ぐ、他の地区における土地利用につきましても検討を進めてまいります。

また、雇用機会の創出を目的とした企業誘致につきまして、従来の誘致活動を一層充実させ、新たな企業の誘致に向け、鋭意努めてまいります。

二つ目としまして、「豊かなふるさとを生かしたまちづくり」であります。

私は、この地に生まれ育ち、これまで20年以上にわたり町政に関わってまいりました。

この間、町民の皆様や様々な分野の方々と交流させていただきましたが、その中で、特に私が感じたことは、多くの方が松島町に対する愛着と誇りを持って生活されているということであります。

古来より、幾多の島々が織りなす風光明媚な景観と国宝瑞巖寺をはじめとする由緒ある神社仏閣や数多くの歴史文化遺産、四季折々の恵みを映す豊富な食材など、多くの人々を魅了し続けてきたこの町は、私にとっても自慢の「ふるさと」であり、後世に受け継いでいかなければならない「宝」であると常々感じております。

今後も引き続き、本町が有する貴重な資源を守りながら、更に誇れる自慢の源となるよう新たな資源の掘り起こしと磨き上げにより、ふるさと「松島」の価値を一層高めるとともに、本町の礎を築いてこられた高齢者の皆様、そして本町の未来を担う子どもたちなど、誰もが元気で豊かに暮らせる、バランスのとれたまちづくりを進め、郷土愛の醸成に努めてまいります。

また、この豊かなふるさと「松島」の魅力を最大限に発揮させ、多くの方々に「行ってみたい」、「住んでみたい」と感じていただくためにも、これまで進めてまいりました観光プロモーション事業の更なる拡充と「世界で最も美しい湾クラブ」や交流事業等による国内外へのPR活動を積極的に行ってまいります。

三つ目としまして、「多様な産業の更なる推進」であります。

本町は、農林水産業や商工業、観光業によって支えられており、まちの賑わいを創出し、飛躍的に発展していくためには、地域産業力の増強や地域経済力の向上が不可欠であります。また、人口減少の抑制においても、雇用基盤の強化が有効かつ重要でありますことから、まちを支える全ての産業の更なる振興を図るとともに、有機的な連携を推進してまいります。

はじめに、農林業につきましては、磯崎・手樽地区のほ場整備により米の生産性の向上が期待できる一方で、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化、担い手の不足などに起因する生産基盤の弱体化が懸念されておりますことから、持続可能な農業経営を行うことができる環境づくりとしまして、経営所得安定対策等について、引き続き取り組んでまいります。

また、担い手の確保・育成としまして、新規就農者へのサポートを積極的に行うとともに、認定農業者及び集落営農組織の支援を引き続き実施し、活力ある地域農業の推進に努めてまいります。

さらに、本町の豊富な農産物等を生かし、他産業と連携しながら、幅広い分野におけるアグリビジネスの創出を図ってまいります

次に、水産業につきましては、特産品でありますカキやアサリ等の安全性の確保と安定出荷、生産者の高齢化等が引き続きの課題となっております。

現在、本町では「松島」、「磯崎」、「名籠」、「古浦」の4つの漁港において浅海養殖漁業が行われておりますが、磯崎地区において新た

な青年漁業士が認定されるなど、若手を中心に活気を取り戻しつつある一方で、他地区におきましては高齢化等に伴う生産者の減少により、以前の漁獲量が見込めない状況となっております。

このため、水産業の健全な運営と生産者の生活安定を目的として、カキの衛生検査やアサリの稚貝散布、天敵貝の駆除作業に対する支援を継続するとともに、後継者の育成や更なる活性化に努めてまいります。

商工業につきましては、「松島ブランド」をはじめとする、他産業との連携による本町の魅力ある地域資源を生かした施策の拡充に努めるとともに、地域企業の育成や地元商店街の一層の活性化を図るための中小企業・小規模事業者への支援や融資のあっせん、「創業支援等事業計画」に基づく起業・創業支援について、引き続き実施してまいります。

観光業につきましては、震災以降、数々の観光キャンペーンや各種イベント等を積極的に実施しながら松島観光の復興に努めた成果により、昨年は、震災後初めて年間300万人を超える入込となりました。

今後も引き続き、一般社団法人松島観光協会をはじめとした関係機関との連携を密にしながら更なる誘客に努めるとともに、震災以前の水準に戻すべく宿泊客の増加に繋がる取組を検討してまいります。

また、松島観光の玄関口としてふさわしい環境づくりとしまして、松島海岸駅のバリアフリー設備整備事業を着実に進めるとともに、駅を拠点とした更なる観光振興を目指し、新たなグランドデザインを描いてまいります。

四つ目としまして、「次の世代を育む人材育成と産業間の連携強化」であります。

現在、日本全体で、生産年齢人口が減少する中、有効求人倍率が高水準を維持しており、全国的に深刻な人材不足が問題となっております。

地域経済を発展させていくためには、それを支える人材、また次の世代を育む人材が重要であり、特に若者の地元企業への就職・定着が不可欠でありますことから、これまでも様々な形で施策を展開してまいりました。

今後も、「人材は地域の財産である」と見据え、まちの発展、明るい未来の創造のためにも、幼児教育と保育、学校教育の充実を引き続き図ってまいります。

また、住民サービス向上のためには、施策の担い手である町職員の更なる資質向上と意識改革が重要かつ不可欠であります。

これまで様々な研修機会を設け、個々のレベルアップを図ってまいりましたが、引き続き、若手職員の育成を中心に、仕事を進める上での効率化や責任感の醸成に努め、「組織力」の一層の強化を目指してまいります。

また、そのような有用かつ多様な人材の能力を幅広く最大限に発揮するため、本町におけるあらゆる産業を横断的に結び付け、その相互作用、相乗効果による一層の産業活力の向上や新たなまちの魅力創出を図ってまいります。

さらに、事業者や住民の方が生産・製造・提供した特産品、観光資源の高付加価値化や販路の拡大を目的として、特産品や観光資源における松島ブランドの一層の充実を図りながら、地産地消拡大を目的とした「商談会」や「まつの市」を引き続き実施してまいります。

五つ目としまして、「幼稚園、保育所の連携と施設整備」であります。

近年、全国的に少子化が進行する中で、核家族化や女性の社会進出の拡大等による保育需要の増加や子育てニーズの多様化が進み、それらに対応した的確で効果的な子育て支援体制の整備・拡充が求められております。

本町におきましては、教育と保育環境の更なる充実を目的としてこれまで検討を重ねてまいりました「保育所・幼稚園の再編」につきまして、「認定こども園」への移行を目指し、慎重に検討を重ねながら調整を進めております。

今後は、この認定こども園への適切かつ円滑な移行に努めるとともに、安心して子どもを産み、育てることができるよう、仕事と育児の両立が可能となる子育て環境の整備等、施策の拡充を図ってまいります。

震災復興につきましては、着実な進捗が図られておりますことから、復興庁をはじめとする関係機関との調整を図りながら、残る復興事業の完遂に向け、鋭意努めてまいります。

また、復興期間の終了に伴い、2021年度以降の本町の予算規模は震災前の水準に戻るものと想定されますことから、事務事業の取捨選択と集中を一層徹底し、適正かつ効率的な行財政運営に努め、この厳しい時代を「チーム松島」一丸となって乗り越えていく所存であります。

以上、申し上げました政策の方針を基本に、「活力あるまちづくりの実現」を目指し、全力で町政運営に取り組んでまいりますので、議員各位並びに町民の皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます、町長就任の挨拶及び所信表明とさせていただきます。